

希望の大地に

綿花で除塩

東日本大震災で津波被害を受けた田畑で除塩効果がある綿花を栽培し、農地を再生させる「東日本エルドラープロジェクト」を、

全国の綿花栽培地の自治体や繊維会社などが

津波被害を支援

共同で始める。希望する農家に綿の種を無償提供し、収穫した綿花を市場価格の倍以上で買い取るうえ、製品の利益も復興支援に充てる「一石三鳥」の取り組みだ。17日、宮城県

繊維会社など高値で買い取り

名取市で種まきを始めた。大阪市の靴下メーカー「タビオ」と大阪府阪南市の繊維メーカー「大正紡績」が提案。5月に同府岸和田市で開かれた「第1回全国コットンサミット」のメンバーの栽培地やJ A、繊維会社など約50団体に参加する。

関西者によると、米などの作物は、土壌の塩分濃度が0・2%を超えると栽培が難しいが、綿なら1%程度まで育つ。従来、干拓地

の除塩に使われるなど、綿の生育に伴う塩分吸収効果も期待でき、3年以上の栽培で元の状態まで除塩できる見込みだという。

収穫綿花は大正紡績が買い取って糸にする。市場価格は1キログラム300～500円だが、当面は1000円で買い取る。アパレル会社や小売30社以上の協賛を得ており、製品の「震災復興商品」として販売し、利益を復興支援に充てる。

先月から宮城県内の

農業試験場などで試験栽培し、17日、名取市で初めて本格的に種をまいた。今年度は約5割に広がる目標だ。大正紡績の近藤健一



宮城県内で5月に試験的に行った種まきの模様—大正紡績提供

取締役営業部長は「被災地では、農業をやめたいという人が多い。農地が使われないのは国の損失だ。綿を育てて除塩しつつ収入ももたらすことで耕作放棄を防ぎたい」と話している。【田中将隆】